

公益社団法人私立大学情報教育協会  
平成 26 年度第 2 回大学情報システム研究委員会議事概要

- I. 日 時：平成 26 年 11 月 20 日(木) 13:00 から 15:00 まで  
II. 場 所：私情協 事務局  
III. 参加者：疋田担当理事、岩井委員長、藤本委員、小川委員(Skype にてご参加)  
アドバイザー賛助会員：(株)ニッセイコム、(株)富士通マーケティング  
事務局：井端事務局長、野本、藤江(記)

IV. 検討事項

「学修ポートフォリオに対する理解の促進に向けて(中間まとめ)」の提言を踏まえ、学修ポートフォリオの導入に向けた対策として「シラバスの中で学修ポートフォリオに取り組む必要性の説明モデルの例示」及び「学士力の修得状況を自己点検できるようにするワークシートの作成」について整理した。

1. シラバスの中で学修ポートフォリオに取り組む必要性の説明モデルの例示

- ① 学修ポートフォリオは自分の能力をさらに高めるのに役立つツールであり、学修プロセスとその成果を自分で確認・自省する力を育成するということは、就職後の長い人生を考えた場合に重要になってくるということを学生に理解させる必要がある。
- ② いつの時期にどのようなものを学修成果として蓄積するのか等、学修ポートフォリオの具体的な活用方法をシラバスに明記する必要があるのではないか。
- ③ 学期中と履修後においても、学修ポートフォリオを活用して学びの支援及び教育改善に役立てる。その単位を修得した後に実際の理解度もポートフォリオ上に反映できるのが理想である。
- ④ 学修ポートフォリオの運用に関して、教員のかかわりについても明確にする必要がある。また、教員同士が情報共有して連携することが重要と考える。
- ⑤ 学修成果を蓄積しているというだけでなく、学生の振り返りに対して教員がコメントをすることが重要である。学生と教員がキャッチボールをしていく中で、学生から悩み(SOS)が出てくることもある。そのような事も拾い上げていく必要がある。
- ⑥ 学生が信実を書いてくれる仕組みは非常に難しいが、教員が学生に対して真摯に呼びかけ、教員の熱意を見せることが重要である。出来ればマルチメディアを通して語りかけると熱意が伝わるのではないか。
- ⑦ 学修ポートフォリオはシラバスと連動しているというふうを考えるべきである。15回の講義全体をポートフォリオと連動させることが重要だ。
- ⑧ シラバスに関しては最近、学生読まなくなっている。だから、それをもう一回ダイファインドさせる機会と捉えることもできる。
- ⑨ 新任やポートフォリオ活用の経験のない先生には経験豊富な先生が教員メンターとして育成に携ることも考えられる。
- ⑩ 4年間通して学修ポートフォリオ取り組む前提として、大学としてカリキュラムの中に学修ポートフォリオの活用をどう組み込むかということを明確にすることが重要だ。

(1) 学生への語りかけ(スクリプト)に関する意見

- ① 例えば、就活に関しては1年生に言ってもわからないが、3年生になったら現実味を帯びてくる等、語りかけも年次によって捉え方が違う。
- ② 先生の語りかけだけではなく、先輩からの声を入れておくのが非常に効果的ではないか。むしろ先生のほうのウエイトを低くして、先輩からのスクリプトというのを入れたほうが良い。先輩からの自分で体験した学修ポートフォリオを使ってみた経験を、15秒〜20秒くらいで話してもらおう。
- ③ 学修ポートフォリオの活用を習慣づけるためには、インパクトのあるやり方が必要なのではないか。教員の思いを手短に、臨場感のある形で、映像で公開することが効果的であり、授業を受けた学生に意見をもらい、教員自身が振り返り、場合によっては映像を作り直すくらいのスタンスが必要だ。さらに、上級生などの声が入れば、もっと良いものとなる。

2. 学士力の修得状況を自己点検できるようにするワークシートの作成

- ① 到達目標や学士力に対する達成度、成長したと思える点、アピールすべき長所、知識レベル、学修進路等の項目が考えられる。
- ② 次のレベルの学びに行くのは現段階の学びについて理解できているかの確認が重要となる。そのためには、学びの段階に応じた学習ワークシートの設計が必要だ。履修後や成績判定後の学修ポートフォリオへの記載も必要だ。
- ③ 授業の科目に対しての理解の真実性を確認するワークシートが重要だ。授業の進み具合を先生が点検するためのワークシートと、到達目標に対して到達できたのか確認するワークシートの2つが考えられる。学びの理解度は試験で判定するだけではなく、学生の理解度について本音はどうか確認することが重要だ。
- ④ 特に最後の学習到達度を確認するワークシートでは、単位は取得したが、学びが本当に身について、その学びを社会に出た時に使えるのかどうかという本音の確認をしたい。学生の内心を自分で吐露させる仕組みが大切だ。
- ⑤ 基礎学力を3週目か4週目には確認しておく必要がある。ジェネリックスキルをはかるワークシートの作成も必要なのではないか。知識の定義を説明できるのではなくて、社会でおきている現象と結びつけて、知識を理解できているかの確認だ。
- ⑥ 学生に真実を吐露させる方法として、自分の達成度(%)とその理由を書かせるのは効果的だ。そのレポートは授業の最終週では学生に返せないのもので、最後の授業は自己点検週として先生が学生の理解度を全体的に確認する。
- ⑦ 例えば、単位は取って授業は修了しているが、自己評価でもいい点数が本当に付くかどうかは、本当に吐露してもらった場合違ってくるのではないか。真実を吐露は先生にとっては点数の上ではわからないデータであり、ワークシートに反映したい。
- ⑧ 問題になるのは、学生は振り返り方が分からないことだ。従って学生に振り返り方を示してあげる必要がある。例として、アメリカの教員養成の大学のワークシートでは、非常にシステムティックに誰でも振り返られることが出来るようなワークシートを作っていた。それを何回かやっているうちに、レベルの高い振り返りが出来るようになると思う。
- ⑨ 中途半端な学修をしていると、社会で持たない。就職3年後以内に3分の1が辞めてしまう。したがって、大学の中で出来るだけ失敗の経験をさせることが必要だ。成功事例を学ぶのではなく、失敗を自ら体験させる授業に切り替えていくことも重要。失敗体験も吐露させるワークシートの設計が必要。

## V. 今後の検討の進め方について

今回は、「学士力の獲得に不安を抱える学生を対象とした学修支援方法のモデルの作成」「個々の授業課題を解決するための改善策を学生にフィードバックする仕組みモデルの例示作成」及び「授業の有効性を確認する方法のモデルの例示作成」まで委員会にて検討することにした。各委員から1月10日を目途に意見、データ、資料等を提供の上、メール上で意見交換を行い、それを踏まえて委員長が整理することとした。

◇第3回：27年1月20日(火)16:00～予定

- (3) 学士力の獲得に不安を抱える学生を対象とした学修支援方法のモデルの作成
- (4) 個々の授業課題を解決するための改善策を学生にフィードバックする仕組みモデルの例示作成
- (5) 授業の有効性を確認する方法のモデルの例示作成

### 【参考】今後の検討事項と検討の進め方について

優先的に検討すべき事項を平成26年度のテーマとし、検討成果を発表する。その上で検討のテーマについて平成27年度に検討を行い、全体としての報告をとりまとめる。

#### 1. 優先的に検討すべき事項(平成26年度検討項目)

- (1) シラバスの中で学修ポートフォリオに取り組む必要性の説明イメージの例示
- (2) 学士力の修得状況を自己点検できるようにするワークシートの例示
- (3) 学士力の獲得に不安を抱える学生を対象とした学修支援の仕方についてのモデル
- (4) 個々の授業課題を解決するための改善策を学生にフィードバックする仕組みの例示
- (5) 授業の有効性を確認する方法のモデルの例示

#### 2. 次年度に検討すべき事項(平成27年度検討項目)

- (1) 教職員の意識変革を推進する取り組みの例示
- (2) 教育プログラムの効果を学部または学科単位で点検するための仕組みの例示
- (3) 学修ポートフォリオによる学生の負荷低減のための教学マネジメントの課題を提案
- (4) ガバナンスの理解を得るための方法の例示
- (5) eポートフォリオシステム構築に伴う留意点の整理
- (6) eポートフォリオシステムを運用管理する留意点の整理
- (7) eポートフォリオシステム導入事例の紹介と課題の紹介